

◇間質性肺炎・肺線維症

間質性肺炎は肺という臓器そのものの病気です。その原因は、遺伝的要因、膠原病を含めた自己の免疫異常、薬剤性、吸入抗原による過敏性と明確なものから、原因が不明なもの（特発性）まで多岐にわたります。原因を除去できるものは原因除去が治療の最優先であり、それが不可能な例や慢性例では炎症を抑制するステロイド剤や免疫抑制剤が治療の中心になります。一方、肺線維症例は近年では炎症抑制より抗線維化薬投与が有効であることが解っております。大切なことは明確な診断を行い、長期的な観点から治療法を決定することです。

検査方法として胸部 CT、呼吸機能検査が重要で、当院では必要時に即時に検査ができる体制が確立しています。多くの症例は胸部 CT から診断の予測が可能で、臨床経過、血液検査、画像所見のみで診断が可能な症例もありますが、正確な診断後の治療方針決定を目的に、必要に応じて気管支鏡検査または呼吸器外科に依頼して胸腔鏡下肺生検を行います。

間質性肺炎の急性増悪時には基本的に呼吸器内科病棟で治療・管理いたしますが、人工呼吸器管理が必要となるような重症の際には当院の集中治療室(ICU)で対応いたします。早期の適切な治療導入が重要で、綿密な全身管理に加えて先進的な医療を施し、治療成績が高くなるよう日々努力しております。

[間質性肺炎外来はこちら](#)